

米子水鳥公園で観察されたコブハクチョウによる コハクチョウの追い出し行為

神谷 要

(財)中海水鳥国際交流基金財団, 683-0855 米子市彦名新田665

日本鳥学会(日本鳥類目録編集委員会 2000)は、日本においてコブハクチョウ *Cygnus olor*は日本産の鳥としているが、日本生態学会(2002)は、外来種リストにリストアップしている。

これは、日本鳥学会が八丈島で確認されたコブハクチョウを野生の記録としているためであるが、それ以外の地域で観察されたコブハクチョウは、すべて籠脱けであるとの論議に疑問の余地はない。現在、この籠脱けのコブハクチョウは、ウトナイ湖(北海道)や牛久沼(茨城県)、東郷湖(鳥取県)などで繁殖しているが、全国の一斉カウントでは、その個体数は150羽前後で安定している(環境省 2002)。しかし、山陰地方でコブハクチョウは増加傾向にあり、新聞などでも繁殖(天神川・神西湖・大橋川)している様子が多く取り上げられるようになった。

このように野生化してしまったコブハクチョウは、他の外来種と同様に生態系に



図1. コハクチョウを追うコブハクチョウ.

Kaname KAMIYA. A mute swan *Cygnus olor* drove the flock of Bewick's swan *Cygnus colonbianus bewiickii* from Yonago Waterbirds Sanctuary.

影響を与えるか心配されるところであるが、このような検討は、あまり行われていない。

また、瓢湖(新潟)の佐藤巖氏にお尋ねしたところ、瓢湖では飼育下のコブハクチョウと野生のコブハクチョウは問題なく同居しており、そのような問題はないとのことであった(佐藤私信)。

しかし、今回、米子水鳥公園では、飛来したコブハクチョウが、越冬しているコブハクチョウ *Cygnus colonbianus Bewickii* 200羽を追い払う行動が観察されたので報告する。

2003年2月16日、11:20ごろ 米子水鳥公園に1羽のコブハクチョウが飛来した。このコブハクチョウは、中海において3~5羽生息しているうちの1羽と考えられる。この1羽は、翼を持ち上げた姿勢で、コブハクチョウの群れを威嚇し、逃げるコブハクチョウの群れを威嚇の姿勢のまま10分程度追いつづけた(図1)。そのため、コブハクチョウたちは、飛び立って安来の採食地である水田の方面へ飛び去ってしまった。

しかし、翼を怪我して飛べないコブハクチョウ(1羽)は公園に残ったので、その後30分間、このコブハクチョウの威嚇姿勢により、追いまわしを行った。

そのままコブハクチョウは、30分程度園内の公園の池に滞在したが、米子湾方面へ飛去した。

米子水鳥公園では、コブハクチョウの同様な追い出し行動が、このシーズン(2003年1月~3月)だけで5~6回観察された。

今後、野生化したコブハクチョウが、各地で本来の在来種であるコブハクチョウやオオハクチョウの生息を脅かしたり、見えない形で生態系をかく乱したりしないか心配される。

文献

- 日本鳥類目録編集委員会. 2000. 日本鳥類目録改訂第六版. 日本鳥学会, 帯広.
日本生態学会編. 2002. 外来種ハンドブック. 地人書館, 東京.
環境省. 2002. 第三十三回カモ類生息数調査報告書. 環境省自然保護局野生生物課,
東京.